

2023年2月6日トルコ・シリア地震について関係機関訪問と被災地視察を実施しました (2023/4/13 - 20)

テーマ：トルコ・シリア地震，防災・減災研究連携，被災地視察
会場：イスタンブール，アンカラ，被災地（ハタイ県）

2023年2月6日に発生したトルコ・シリア地震では、マグニチュード7クラスの地震が立て続けに2度発生し、震源地のトルコ南部を中心とした広い地域において多くの建物が倒壊し、5万人を超える犠牲者が出ました。本地震で亡くなられた方々に心からの弔意を表するとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、被害に遭われた方々の早期回復をお祈りするとともに、被災地域における早期の復旧復興を祈念致します。

この大震災に対して、当研究所は発災直後から速報会や国際セミナーを開催し、情報・データの共有や研究・支援課題について議論して参りました。この度、国立研究開発法人防災科学技術研究所と連携し、トルコ国内の関係大学や機関を訪問し、さらには被災地を訪れました。合同派遣チームは、今村文彦教授（津波工学研究分野）、榎田竜太准教授（地震工学研究分野）、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）、井内加奈子准教授（レジリエンス計画研究分野）、伊勢正主任専門研究員（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）で構成され、2023年4月13日（木）より20日（木）まで、イスタンブール、アンカラ、被災地（ハタイ県）を訪れました。

中東工科大学、イスタンブール工科大学、イリディズ工科大学などの大学とは被害実態や今後の対策に加えて共同研究についても議論しました。また、在トルコ日本大使館、JICAトルコ事務所、大統領府 戦略・予算室、環境・都市・気候変動省 インフラ・都市変革サービス総局、世界銀行トルコ事務所、さらには在トルコ森脇義則氏などを訪問し、震災の現状、地震対策（特に、耐震や免震技術の現状）、復興・まちの再建に向けた主な動き、主要なステークホルダー（政府やドナーなど）の特定、学術機関としての将来的な貢献・研究の機会などについて情報や意見の交換を行いました。

今回、特に被害の大きかったトルコ南部のハタイ県（アンタキヤ市など）を視察しました。東日本大震災の経験を共有し、今後の復興計画に役立ててもらうのがねらいで、被害の大きかった地域で壊れた建物について、被害や施工の状況を確認しました。また、避難所を視察し、衛生面に加えて子どもや弱者のケアなどの運営実態を拝見しました。東日本大震災では夏場に高齢者が体調不良を訴えるケースも多かったことから、暑さ対策として温度計の設置を提案するなど、長期化する避難生活での体調管理の重要性などをアドバイスしました。

今後は、地元トルコ側や関連大学・機関と連携した共同研究を立ち上げ、課題整理と解決策の提案、さらには被災地支援を含めた継続的な活動に繋がりたいと考えています。

被災地視察の様子は、全国並びに地元のニュースでも取り上げられました。

文責：今村文彦（津波工学研究分野）
榎田竜太（地震工学研究分野）
佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）
井内加奈子（レジリエンス計画研究分野）

（次頁へつづく）



イスタンブール工科大学にて



4月17日中東工科大学での交流会の様子



大統領府 戦略・予算室
 東日本大震災からの復興体制等を
 議論している様子



アゼルバイジャン国の支援を受けた避難所
 当初から子どもの「学びの場」が
 レイアウトされている



衛生面に配慮された浄水タンクと排水機構



2階が層崩壊した建物（アンタキヤ）



アンタキヤ中心部の石造り歴史建造物の倒壊



アンタキヤでの調査の様子